Shinshu University Journal of Educational Research and Practice, *No.10*, pp. 195-206, 2017
信州大学教育学部研究論集　第10号　pp. 195-206　2017年

＜資料紹介＞

メリーランド大学所蔵　L.W. メーソン・コレクション

小野　文子　信州大学学術研究院教育学系

キーワード：J.McN.ホイッスラー，岡倉天心，L.W. メーソン，中村専

本稿では，メリーランド大学に寄託されているルーサー・ホワイティング・メーソン（1818－1896）のコレクション（以下「メーソン・コレクション」と略記する）の中から，特に興味深いと考えた写真，書簡を紹介する[1]。メーソンは，1880年に日本政府から招聘され，およそ2年半の間，明治期の日本の音楽教育黎明期に西洋音楽を伝えた人物である。大森貝塚の発見者であり，お雇い外国人として東京大学教授を務め，日本の陶磁器を収集してボストン美術館に寄贈したことで知られるエドワード・モース（1838－1925）は，『日本その日その日』において次のように記している。

> 七月二日，私はメーソン氏が西洋式に歌うように訓練した，師範学校の学級の，公開演奏会に列席した。この会は古い支那学校［聖堂］のよい音響上の性質を持っている美事な広間で行われた。学級につぐ学級が出て来て，各種の選曲を歌った。…中略…ピアノの演奏もあり，そのあるものは著しく上手だった。また提琴（ヴァイオリン），クラリネット，フリュート，バス・ヴィオル等の管絃団（オーケストラ）があって，「栄光あるアポロ」，「平和の天使」，「ハーレックの人々」その他の曲を，まったくうまく演奏した。小坂三吉という五つになる小さな子供は，鍵盤（キー）に手が届き兼ねる位なのだが，著しい巧妙さを以て，簡単な曲をピアノで弾いた。[2]

メーソン・コレクションに辿り着いた研究の背景については，今後稿を改めて執筆したいと考えているが，出発点は，アメリカ人の画家 J.McN.ホイッスラー（1834－1903）のジャポニスムであった。ホイッスラーは，日本美術から影響を受け，19 世紀イギリスのヴィクトリアン・ヘレニズムの潮流の中で，西洋の古典であるギリシャ美術と日本美術の融合を試みた画家である。彼は美の普遍性を唱え，自らの作品において東西の造形表現を融合し，「ノクターン」という音楽的タイトルをつけた夜景画を描き，20 世紀の抽象絵画へと通じる新たな造形表現の可能性を切り開いた。ホイッスラーの作品は，欧米だけでなく日本の芸術にも影響を与えたが，それと同時に，彼が唱えた東西の美の普遍性や融合は，彼のパトロンであったチャールズ・ラング・フリーア（1854－1919）の美術作品収集の方針に大きな影響を与えた。そして，フリーアの日本美術作品収集に助力したのが，アーネスト・フェノロサ（1853－1908）である。フェノロサは，お雇い外国人として日本に滞在中は，ホイッスラーについて批判的であったが，フリーアと出会ってからは，ホイッスラーの作品に対する理解

を深め，東西の造形表現の融合を見出した。また，フェノロサはハーバード大学在学中にチャールズ・エリオット・ノートン（1827－1908）の美術史の講義を受けたとされているが，ノートンは，ホイッスラーの宿敵であったジョン・ラスキン（1819－1900）と親しく，ラスキンの著作に関する遺言執行者（literary executor）でもあった。本稿で紹介する写真と書簡は，こうしたホイッスラーに連なる同時代の人々の交流を追う過程で見出したものである。

図 1 は，東京女子師範学校附属幼稚園で撮影された，メーソン・コレクションの中の 1 枚である。写真の裏には，Kindergarten in Japan 1881 と記され（図 2），インヴェントリーには，「Kindergarten, Tokyo (1881). Mason seated on porch with teachers and about 100 children. This is the kindergarten attached to Tōkyō Joshi Shihan Gakkō [Tokyo Female Normal School].」と記載されている。インヴェントリーにもあるように，写真の後方でポーチに座っているのがメーソンである（図 3）。この写真は，1934（昭和 9）年に出版された『日本幼稚園史』に「東京女子師範学校附属幼稚園の職員及児童（明治 15 年）」として掲載されている[3]。しかし，白黒の図版からは，個人を判別することはできない[4]。また，メーソン・コレクションの写真には図 2 の通り 1881（明治 14）年の記載があるが，『日本幼稚園史』では 1882（明治 15）年とされていることから，撮影年を確認するために復刻版を出版した臨川書店に問い合わせたが，手がかりを得ることはできなかった。東京女子師範学校附属幼稚園での撮影であることから，お茶の水女子大学歴史資料館にも問い合わせたが，実物及び記録はなく，明治 15 年撮影とする根拠を得ることはできなかった。筆者が実見したメーソン・コレクションの写真の裏の記載はかなり古くに書かれたように見え，コレクションは遺族によって 1972 年からメリーランド大学に寄託されていることからも，おそらく本人，あるいは家族が記録のために記したと考えられる。

この写真が撮影されたとされる 1881 年，つまり明治 14 年は，岡倉天心（1861－1913）が音楽取調掛に勤務し，メーソンの通訳を務めていた頃である。そしてこの写真の最後列の左端には，面長の輪郭，細長の一重瞼，額や頬骨，そして顎の形から，若き日の岡倉天心ではないかと思われる人物が写っている（図 4）。この男性が天心ではないかと推測するに至ったのは，こうした容姿という外的な要素だけでなく，寄託品にある書簡からも，ある程度の示唆を得たからである。本稿では，書簡についても資料として紹介したい。

メーソン・コレクションの中には，中村専がメーソンの娘ヴァージニア・アイリッシュ夫人に宛てた 1881 年 5 月 26 日付の書簡がある（図 5）。図 1 の写真の最後列右端が中村専だと思われる（図 3）。中村の書簡には，昭憲皇太后の東京女子師範への行啓について書かれており，「岡倉さん（通訳）がメーソン夫人に手紙を書いたので，全て詳しいことは彼女からお聞きいただけますでしょうか」とある。中村専は，音楽取調掛伝習生として洋楽を学び，英語が堪能であったことから，メーソンの通訳も務めていた。彼女は，後に東京師範学校，女子高等師範学校の校長を歴任することになる教育学者高嶺秀夫（1854－1910）と結婚している。また，幸田露伴（1867－1947）の妹で東京音楽学校教授となる幸田延（1870－1947）

にピアノを教えたことでも知られている。幸田延もメーソンから器楽を習った時期があり，メーソン帰国後も，メーソンや彼の家族と交流を続けていたことは，このコレクションに残された手紙から知ることができる（図 6）[5]。

メーソン・コレクションの中には，中村専が手紙の中で言及している，昭憲皇太后の行啓について知らせる岡倉からメーソン夫人に宛てた書簡は見当たらない。しかし，このコレクションには，*Luther Whiting Mason and His Contribution to Music in the Schools of Three Continents* と題された，メーソンの弟子オズボーン・マコナシー（1875－1947）がまとめた未刊行の冊子（以下，『マコナシー・ペーパー』と略記する）があり，岡倉がメーソン夫人，およびメーソンの娘のヴァージニア・アイリッシュ夫人に宛てた書簡が転記されている[6]（資料１，資料 2)。メーソン夫人宛書簡の日付は 1881 年 5 月 6 日，メーソンとともに大隈重信邸を訪れたこと，そしてその後岩倉具視をはじめとした明治政府の高官たちが東京女子師範学校を見学し，生徒たちの歌や，伶人たちの演奏に大いに満足したこと，更に 5 月中旬に昭憲皇太后の女子師範学校の行啓があることが決まったことなどを，メーソン夫人に知らせている。そして，ヴァージニア・アイリッシュ夫人に宛てた 1881 年 5 月 26 日付の書簡には，皇太后の到着の様子，伶人による管弦楽の演奏，児童や生徒たちが歌った唱歌の曲目などについて詳しく伝えている。

中村，そして岡倉の 2 通の書簡の内容は，いずれもメーソンの功績を称えたものである。中村は，メーソンがアメリカに帰国後も交流していたと思われ，コレクションには，彼女の肖像写真「高嶺夫人（旧姓中村)」（図 7)，そして二人の子供たちの肖像写真が保存されている[7]。メーソン離日後に岡倉と個人的な交流があったことを示す資料はないが，岡倉がメーソンの通訳としての任務にある中，メーソンの家族に手紙を書き，彼の功績を称えていることを考えると，二人の関係は良好であったように思われる。当時園長職にあった小西信八（1854－1939）は，1929（昭和 4）年に「私の監事時代」で次のように回想している。

> 伊澤さんが音楽取調所長でアメリカからメーソンをつれて来られました。すると，時々この二人で議論が始つてメーソンが困る，それが幼稚園に来ると大変に嬉しがつたものです，岡倉さんと高嶺夫人とが代わる〳〵通訳をしていましたが，メーソンさんを幼稚園によんでもらつて大変助かった，議論が始まるともてあましたけれどほんとうに助かると云つていました。[8]

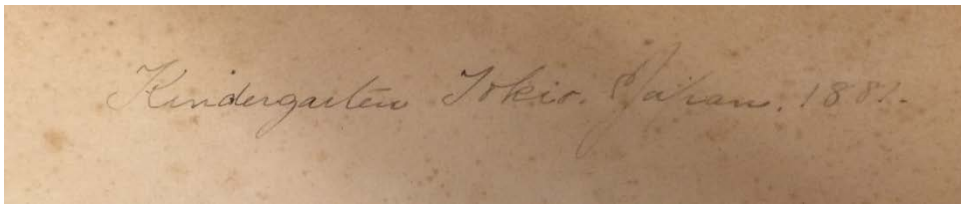
また，同じく小西信八の「メーソンさんのこと」という回想には，「音楽学校の伊澤校長とそりが合はなかったと見えて，常に不平に堪えぬげであった，それで通訳の岡倉中村の両氏はメーソン氏の不機嫌の時は，ぢれられるので困って居られた」とある[9]。

本稿で紹介した図 1 の写真をもう一度ご覧いただきたい。メーソンを支えた岡倉と中村が，写真の左右両端に写っていると考えることはできないだろうか。日本美術に影響を受け，作品に音楽的タイトルを付けた最初の画家であるホイッスラーについての研究を進める中で，日本の音楽教育に大きな足跡を残したメーソンの遺品に出会ったことは，偶然の巡り合

わせであった。本稿で示した推論を補完する資料が今後見つかることに希望を抱きつつ，日本近代美術史，音楽教育史等の各専門の研究者の方々にもご議論，ご意見を賜りたい。

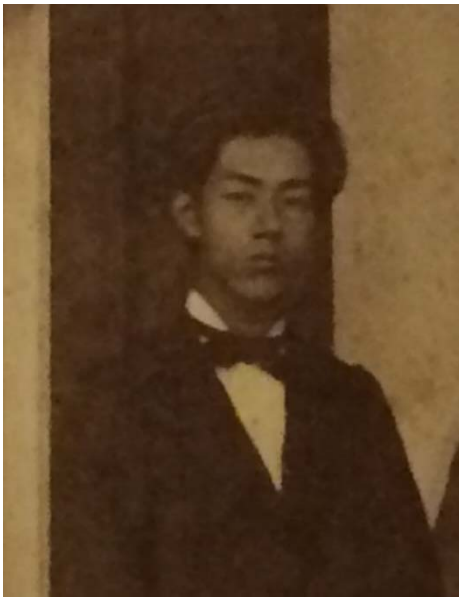
（図 1）東京女子師範学校附属幼稚園

Inventory no.127. Kindergarten, Tokyo (1881).
Courtesy of Special Collections in Performing Arts, University of Maryland.

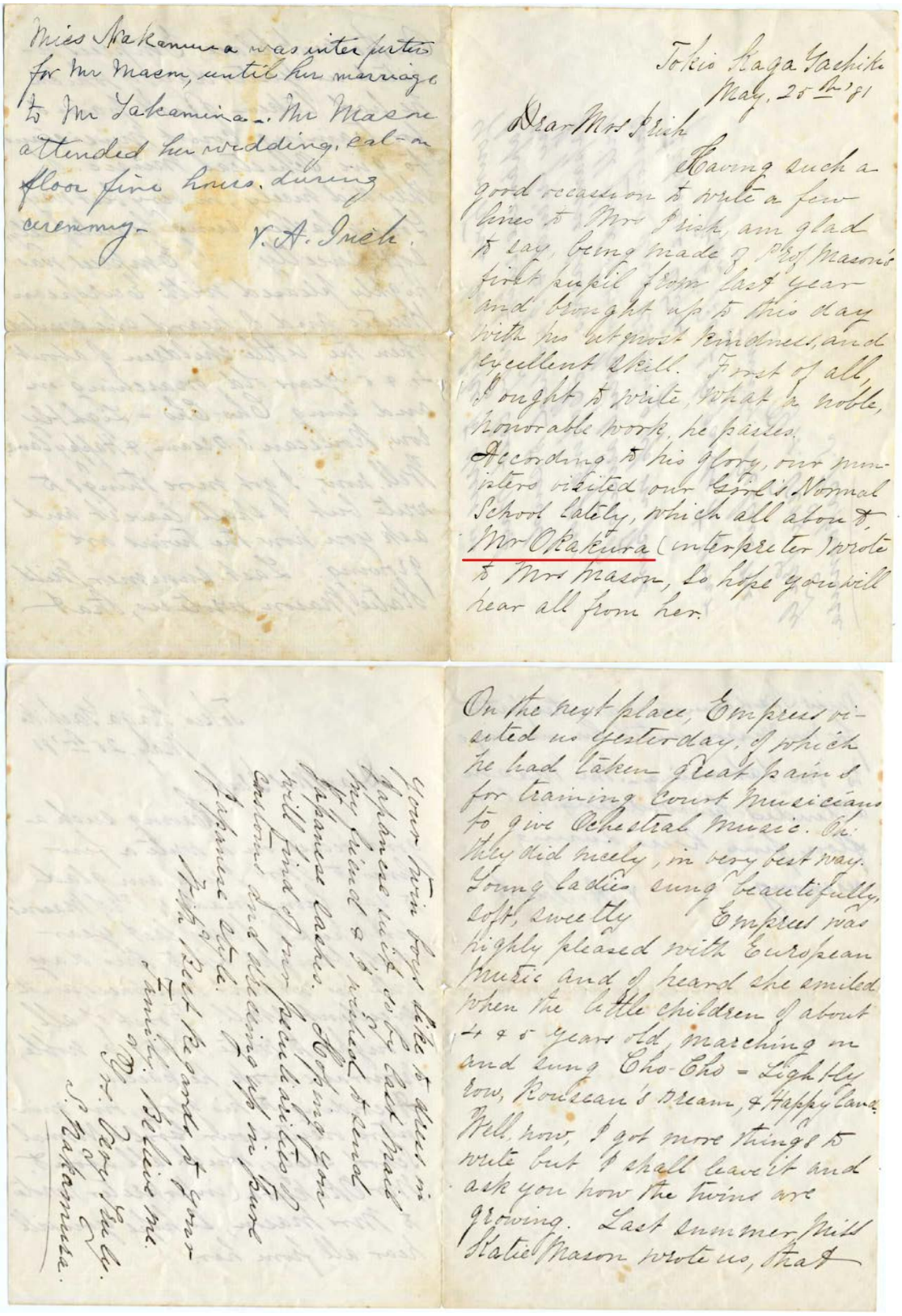


（図 2）（図 1）裏面

（図 3）（図 1）部分



（図 4）（図 1）部分



Miss Nakamura was interpreter for Mr Mason, until her marriage to Mr Takamina. Mr Mason attended her wedding, sat on floor five hours during ceremony.

V. A. Irish.

Tokio Kaga Yashiki
May, 25th '81

Dear Mrs Irish

Having such a good occasion to write a few lines to Mrs Irish, am glad to say, being made of Prof Mason's first pupil from last year and bought up to this day with his utmost kindness, and excellent skill. First of all, I ought to write, what a noble, honorable work, he passes. According to his glory, our minister visited our Girl's Normal School lately, which all about Mr Okakura (interpreter) wrote to Mrs Mason, so hope you will hear all from her.

On the next place, Empress visited us yesterday, of which he had taken great pains for training Court musicians to give Orchestral music. Oh they did nicely, in very best way. Young ladies sung beautifully, soft, sweetly. Empress was highly pleased with European music and I heard she smiled when the little children of about 4 & 5 years old, marching on and sung Cho-Cho = Lightly row, Rousseau's Dream, & Happy land. Well, now, I got more things to write but I shall leave it and ask you how the twins are growing. Last summer Miss Katie Mason wrote us, that

Your twin boys likes to dance in Japanese way, so I sent back their new dress & I received a small Japanese cake. Morning glory will find of new pleasing to Cordial and welcoming up in June

Japanese style.

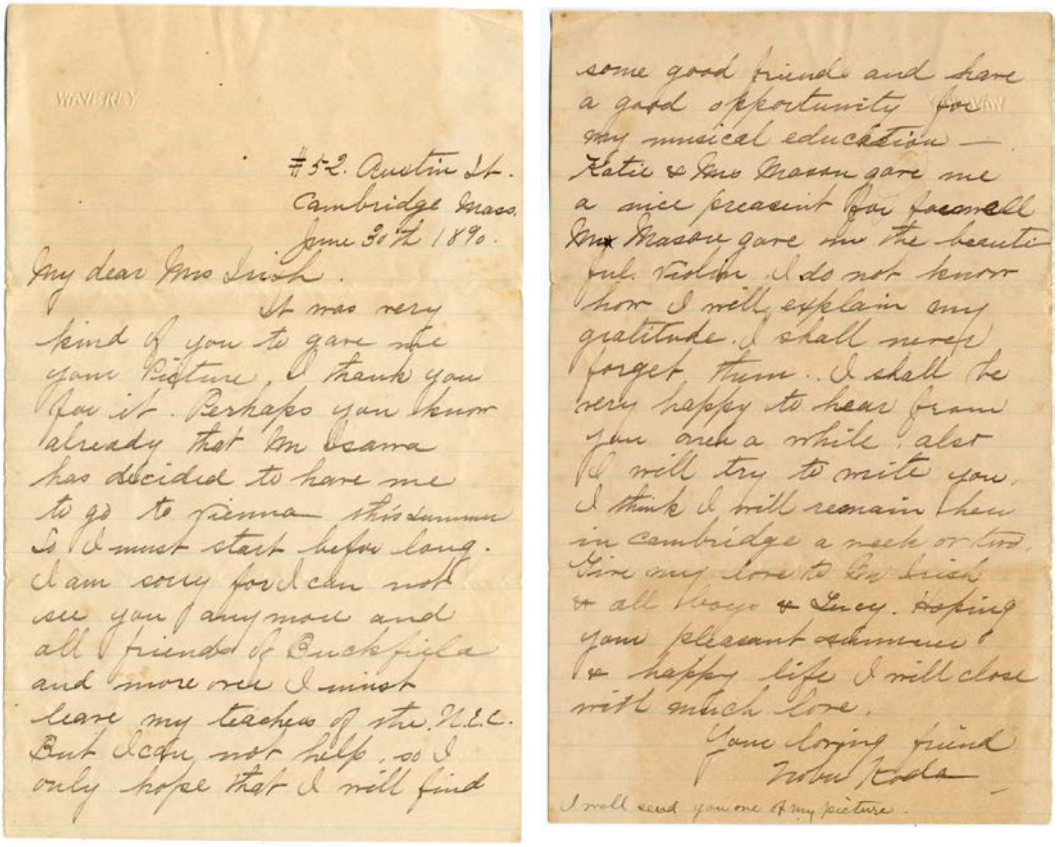
With great regards of Your family. I believe me.

Yours very truly

S. Nakamura.

(図 5) 中村専からメーソン夫人宛書簡　1881 年 5 月 25 日　（下線は筆者による）

Inventory no. 163. Letter from S. Nakamura to Mrs. Irish; May 25, 1881.
Courtesy of Special Collections in Performing Arts, University of Maryland.



WINTERLY

#52. Austin St.
Cambridge Mass.
June 30th 1890.

My dear Mrs Irish.

It was very kind of you to give me your Picture, I thank you for it. Perhaps you know already that Em Ocama has decided to have me to go to Vienna this summer So I must start before long. I am sorry for I can not see you any more and all friends of Buckfield and more see I must leave my teachers of the N.E.C. But I can not help, so I only hope that I will find some good friends and have a good opportunity for my musical education — Katie & Mrs Mason gave me a nice present for farewell Mr Mason gave me the beautiful violin. I do not know how I will explain my gratitude. I shall never forget them. I shall be very happy to hear from you each a while; also I will try to write you. I think I will remain here in Cambridge a week or two. Give my love to Mr Irish & all boys & Lucy. Hoping your pleasant summer & happy life I will close with much love.

Your loving friend
Nobu Koda

I will send you one of my picture.

（図 6）幸田延からヴァージニア・アイリッシュ夫人宛書簡　1890 年 6 月 30 日

Inventory no. 160. Letter from Nobu Kōda to Mrs. Irish; June 30, 1890, 52 Austin St., Cambridge.
Courtesy of Special Collections in Performing Arts, University of Maryland.

（図 7）高嶺専（中村専）

Inventory no.137 Mrs. Takamine (née Nakamura)
Courtesy of Special Collections in Performing Arts, University of Maryland.

＜資料１＞　岡倉天心からメーソン夫人宛書簡

To Mrs. Mason
Tokio, 6th May, 1881
Madam,

I have the honor of writing to you, as Mr. Mason's interpreter and an eye witness of the gracious reception he had at the house of His Highness, Mr. Okuma, the former Minister of Finance, and the impression his works have created on other high personages.

Last Wednesday (the 3rd instant) Mr. Mason and myself arrived at Mr. Okuma's at three in the afternoon. When we were announced, he was sleeping in his room from little indisposition. He jumped up immediately ran down the stairs and heartily greeted Mr. Mason. He said: "I have heard of your laborious effort in the schools. I have heard of your kindness toward the pupils. I have long wished to see you." He asked about the musical capacity of the Japanese which Mr. Mason said was not in the least degree inferior to the western people. He had an old piano and an organ and requested Mr. Mason to see whether it can be fixed for use. Mr. Mason promised to send a piano tuner as soon as possible.

The position of Mr. Okuma as the Minister of Finance had made him a very important member of the High Council. His house and the garden is reported to be next to the emperor's in beauty. He has invited Mr. Mason to come any afternoon with his pupils and play and amuse themselves in the grounds. He also promised to speak to the Minister of Education for getting an American assistant to train the court musicians in orchestra music.

Yesterday (Friday) His Highness, Mr. Iwakura (the third man under the emperor) accompanied by Mr. Okuma, came to visit the Ladies Normal School. The principal thing for them to witness was the singing. The director of the school, Mr. Fukuba, desired Mr. Mason to let the court musicians under his training to play accompaniments to the singing.

Really this was our first attempt in public, and then the guests were such personages as their excellences. Besides the girls were not accustomed to it, and we feared that they will not sing out, being taken by the sound of the double base and other instruments. To add to this, the day was rainy and the instruments may sound peculiarly. So Mr. Mason was anxious. Mr. Isawa was anxious, the court musicians were anxious. We succeeded in getting time to practice the girls twice before the time arrived.

The time arrived at last. Girls did wonders and the instruments did their best. Their highness were immensely pleased. They declared to have heard nothing of the kind

before. Mr. Iwakura asked to have the violin, flute, etc., shown to him. He asked great deal of their use and power. Our attempt was a success.

Mr. Iwakura thanked Mr. Mason for his labors in introducing such fine music into Japan. Mr. Okuma thanked him for sending the piano-maker to his house. Mr. Fukuba thanked him for entertaining his visitors so well. As to Mr. Isawa and the court musicians they were in raptures.

The visit of our Empress to the Ladies Normal School is calculated to be about the middle of the month. We are all making preparations for the grand occasion. But our successful attempt yesterday has made us bold enough to hope for Her Majesty's approval. It is not many foreigners who gets such honors as Mr. Mason.

Yours truly,

Okakura

＜資料 2＞　岡倉天心からヴァージニア・アイリッシュ夫人宛書簡

Tokio, 26th May, 1881

Mrs. Virginia Irish,

It is scarcely necessary for me to inform you about the visit of our Empress to the Ladies Normal School. I suppose that Miss Nakamura has fully stated the facts in her letter.

At half past eight on the morning of 24th (Tuesday) Her Majesty's carriage and retinue were received at the gate of School by two rows of the female students. The weather was rainy but at this moment it was good enough for the ladies not to risk their fine clothes. But the weather have prevented the little children from the Training Schools to receive the Empress. She was attended by nine of the court ladies and several high officials among whom we saw Mr. Sanjo, the prime minister, Mr. Tanaka, the minister of Justice, Mr. Fukuoka, the minister of Education, Mr. Sugi, the Grand Secretary of the Household, and many others.

The Empress was clothed in a simple garb of the white with red and gold birds woven in it. Her hair was simply thrown backward and tied behind. But it is not my province to expound upon the mysteries of a ladies toilet.

The director of the Institution, Mr. Fukuba, ushered Her Highness into the drawing-room. Here, Mr. Mason was presented. The Empress spoke to Mr. Mason, thanking him for his labors in introducing new music into Japan.

She then passed into the Kindergarten and witnessed the singing (old Japanese style) of little children, and their various toys. Meanwhile Mr. Mason, Mr. Yamase, Miss

Nakamura and the court musicians were busy in tuning up and practicing. At noon Mr. Mason sat down to dinner with the prime minister and others. The students in the first class officiated as attendants. They were all trained up in the new style of etiquette which is a compromise between Japanese and European. I think your father will detail the circumstances more minutely.

At one o'clock, the singing class were assembled in the hall. As Her Majesty entered, the orchestra struck up the Italian Hymn, 'Queen of Heaven,' and the ladies stood up and made obeisance till she ascended the platform spread with cloths of gold. It was a grand sight, the ladies with their glittering obis and head-dress, the court ladies in their old costumes. The ladies began to sing (1) Long may thy reign; (2) Charming Little Valley; (3) Moral Song 1. Then three Japanese pieces were sung. The word of one was by the Empress herself. The Empress complimented the students on their great progress. Mr. Fukuba, the Director, answered stating that this was owing to the special attention Her Majesty had bestowed on the school. After this: (4) Moral Song 2; (5) Bonny Dune; (6) Auld and Syne, being sung, the students went out while the band played, "Brightly Gleams our Banner", Haydn, and the little children belonging to the Training School of both Normal Schools marched in. They faced, bowed, and sat according to the three strokes on the piano given by Mr. Mason. They sang in succession: (1) Lightly Row; (2) Rousseau's Dream; (3) There is a Happy Land, and marched out. Her Majesty was seen to smile at their artless manners. She quitted the Hall while the Night Song was played. The gymnastic exercise exhibited shortly after this was of short duration. The main object of this visit was to hear the new music. I have been told that she was very much pleased and also the high officials.

The kotos came out splendidly. I dare say that this success is due to the enthusiastic labors of your father and secondly to the self-sacrificing efforts of Miss Nakamura whose pains in teaching her teacher Mr. Yamase were really wonderful.

I hope to write to you by the next mail about the words applied to the music which was sung on this occasion. So begging excuses for my broken English, I remain,

Your Humble Servant,

K. Okakura.

図 1〜図 7，資料 1・2 Luther Whiting Mason Collection, Special Collections in Performing Arts, University of Maryland.

画像の利用，書簡の転記や翻訳は，コレクションの寄託者である遺族の許可が必要である。

[1] LUTHER WHITING MASON COLLECTION, University of Maryland Special Collections in Performing Arts, University of Maryland.
[2] E.S.モース著　石川欣一訳『日本その日その日』3，東洋文庫 179，1971 年，55－56 頁（第 19 章　1882 年の日本）。
[3] 倉橋惣三，新庄よし子『日本幼稚園史』東洋図書，1934 年（初版）。本稿では，臨川書店による 1980 年発行の復刻版を参照した。
[4] この写真は，Sondra Wieland Howe，*Luther Whiting Mason International Music Educator*，University of Kansas，1997，p.78 にもメーソンのコレクションとして掲載されているが，図版からは個人を判別するのは難しい。ハウは，今回筆者が紹介するメーソン・コレクションを実見したとしている。しかし，実際にはコレクションを精査したとは言い難い誤り等が散見されることから，正確な情報を得ることはできないと考え，本稿執筆にあたっては参考とはしないこととした。また，本書は 1988 年に執筆した博士論文を刊行したものであるとされているが，日本の音楽教育について 3 章を割いているものの，英語で書かれた文献のみに頼り，日本における音楽教育研究の学術論文や一次資料について研究した形跡が見られない。
[5] Letter from Nobu Kōda to Mrs. Irish; June 30, 1890, 52 Austin St., Cambridge, Mass.
[6] Osbourne McConathy, *Luther Whiting Mason and His Contribution to Music in the Schools of Three Countries*, an unpublished manuscript located in the MENC National Center, McKeldin Library, University of Maryland, College Park, Maryland.　資料 1 の書簡は，ラリー・マクガレル『Luther Whiting Mason の音楽教育について―明治初期の音楽教育の背景として』（東京藝術大学修士課程学位論文，1976 年）の 75－76 頁に記載され，中村理平が『洋楽導入者の軌跡―日本近代洋楽史序説』刀水書房，1993 年，521－514 頁に訳出している。中村理平は，『マコナシー・ペーパー』を実見しておらず，マコナシーの記述については，マクガレルの修士論文から引用している。資料 2 については，いずれの論稿にも言及はなく，『マコナシー・ペーパー』のみに記載されている。手紙の中には，いくつか文法的な誤り等があるが，『マコナシー・ペーパー』に転記される際に生じた可能性も否定できないため，本稿では細かな指摘はしないこととする。
[7] インヴェントリーには，Takamine Children: Hideichiro Takamine and Toshio Takamine. Inscription: "to Prof. L.W. Mason with Best Wishes"との記載がある。
[8] 小西信八「私の監事時代」『幼児の教育』（日本幼稚園協会），vol.29 no.1，1929 年，23 頁。引用中にある「伊澤さん」とは，伊澤修二のこと。
[9] 倉橋惣三，新庄よし子，前掲書，283 頁。

文献

小西信八「私の監事時代」『幼児の教育』（日本幼稚園協会），vol.29 no.1，1929 年
倉橋惣三，新庄よし子『日本幼稚園史』東洋図書，1934 年（初版）（復刻版：臨川書店，1980 年）
中村理平『洋楽導入者の軌跡―日本近代洋楽史序説』刀水書房，1993 年
Osbourne McConathy, *Luther Whiting Mason and His Contribution to Music in the Schools of Three Countries*, an unpublished manuscript located in the MENC National Center, McKeldin Library, University of Maryland, College Park, Maryland.

ラリー・マクガレル『Luther Whiting Masonの音楽教育について―明治初期の音楽教育の背景として』東京藝術大学修士課程学位論文，1976年
E.S.モース著　石川欣一訳『日本その日その日』3，東洋文庫179，1971年

附記

メリーランド大学の資料調査では、同大学附属図書館ミシェル・スミス・パフォーミング・アーツ・ライブラリーのジョン・デーヴィス氏にご協力いただいた。また、ラリー・マクガレル論文については、東京藝術大学音楽部音楽教育研究室に閲覧の許可をいただいた。記してお礼申し上げます。

(2016年11月14日　受付)
(2017年 2月20日　受理)